



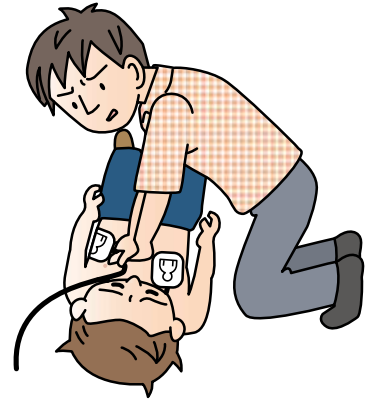
傷病者に反応（意識）がない場合



反応がない場合、あるいは最初は反応があって応急手当を行っている最中にぐったりして反応がなくなった場合には、ただちに通常の心肺蘇生の手順を開始します。(図41)

- ① 助けを呼ぶことや119番通報がまだ済んでいない場合には、ただちに助けを呼び、119番通報とAEDを手配します。
- ② 心肺蘇生を開始します。
- ③ 心肺蘇生を行っている途中で、口の中に異物が見えた場合は、異物を取り除きます。(可能な場合)
- ④ 口の中に異物が見えない場合は、異物を探すのに時間を費やすことはせずに、心肺蘇生を繰り返します。

図41



反応がない場合、ただちに心肺蘇生を開始



乳児の救命処置

①人工呼吸の重要性

乳児の場合は、成人に比べて呼吸が悪くなったことが原因で心停止に至ることが多いため、胸骨圧迫に人工呼吸も併せた心肺蘇生ができるようになることが望ましいと考えられます。

②救命処置の注意点

救命処置は、小児に対しても成人との違いをできるだけ気にせずに行うことができます。子どもたちの命に危険が迫っているときは、年齢を気にすることなく心肺蘇生を行ってください。しかし、1歳未満の乳児には、体の大きさが違うことなどの理由から、さらに適した救命処置のやり方があります。乳児に行う救命処置で特に注意するのは次の点です。

- ① 胸骨圧迫の方法
- ② 人工呼吸の方法
- ③ AEDの使い方
- ④ 気道異物の除去方法

③乳児に対する救命処置の手順

① 安全を確認する

- 近寄る前に周囲の安全を確認し、状況に合わせて自らの安全を確保してから近づきます。

② 反応（意識）を確認する

- 声をかけながら反応があるかないかを確認めます。このとき、足の裏を刺激することも有効です。

③ 助けを呼ぶ

- 反応がなければ、大きな声で助けを求めます。
- 協力者が来たら、「あなたは119番通報してください」「あなたはAEDを持ってきてください」と具体的に依頼します。

ポイント

- 救助者が一人の場合や、協力者が誰もいない場合には、次の手順に移る前に、まず自分で119番通報してください。また、すぐ近くにAEDがあることがわかっている場合にはAEDをとりに行ってください。
- 119番通報すると、指令管制員が次の手順を指導してくれます。



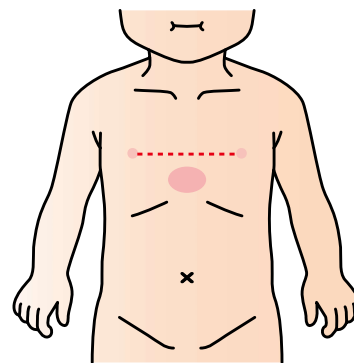
④ 呼吸の確認

- 胸や腹部の上がり下がりを見て、普段どおりの呼吸をしているか判断します。

⑤ 胸骨圧迫

- 圧迫の位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸の真ん中です。(図42)
- 胸骨圧迫は指2本で行います。(図43)
- 1分間に100～120回の速いテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。
- 圧迫の強さ(深さ)は、胸の厚さの約1/3を目安として、十分に沈む程度に、強く、速く、絶え間なく圧迫します。乳児だからといって、こわごわ弱く圧迫しては効果が得られません。

図42



乳児の胸骨圧迫部位

図43



乳児の胸骨圧迫



6 人工呼吸（心肺蘇生の継続）

- 準備ができしだい人工呼吸を開始します。基本的には、まず胸骨圧迫を開始した後、気道確保を実施して人工呼吸を2回行います。
- 気道確保の際に、極端に頭を後屈させるとかえって空気の通り道を塞ぐこととなりますので気を付けましょう。
- 乳児の大きさでは、口対口人工呼吸を実施することが難しい場合があります。この場合は、乳児の口と鼻を同時に自分の口で覆う口対口鼻人工呼吸を行います。（図44）

図44



乳児への人工呼吸（口対口鼻人工呼吸）

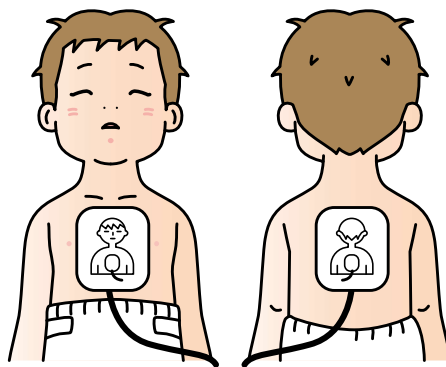
- 胸骨圧迫を30回連続して行った後に、人工呼吸を2回行う組み合わせを救急隊員と交代するまで絶え間なく続けます。

7 AEDの使用

- 乳児にも、AEDを使用します。
 - AEDに小児用電極パッド（小児用モード）が備わっている場合にはそれを用います（切り替えます）。（図45）もし、小児用電極パッド（小児用モード）が備わっていない場合は、成人用電極パッドを使用します。
 - 電極パッドを貼る位置は、電極パッドに表示されている絵に従います。
 - 成人用の電極パッドを使用する際にはパッド同士が接触しないように工夫が必要です。
 - 電気ショックを行ったら、ただちに胸骨圧迫を再開します。
 - 以後は、心肺蘇生とAED使用の手順を、約2分間おきに救急隊員と交代するまで繰り返します。

参考 小児用電極パッドの中には、胸と背中に貼るタイプのももあります。

図45



小児用電極パッドを貼り付ける位置

④乳児に対する気道異物除去の方法

- 気道異物による窒息と判断した場合は、ただちに119番通報を誰かに依頼し、異物除去を行ってください。
- 反応がある場合には、乳児に対しては背部叩打法と胸部突き上げ法を実施します。
 - 背部叩打法は、まず救助者の片腕の上に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児の顔を支えながら、頭部が低くなるような姿勢にします。もう一方の手の付け根で、背中の中を異物が取れるか、反応がなくなるまで強くたたきます。(図46)
 - 胸部突き上げ法は、救助者の片腕の上に乳児の背中を乗せ、手のひらで乳児の後頭部をしっかり支えながら、頭部が低くなるよう仰向けにして、もう一方の手の指2本で、胸の真ん中を力強く数回連続して圧迫します(心肺蘇生の胸骨圧迫と同じ要領です。)(図47)

ポイント

- 乳児に対しては、腹部突き上げ法を行ってはいけません。
- 反応がなくなった場合は、乳児に対する心肺蘇生の手順を開始します。救助者が一人の場合は、まず119番通報とAEDの手配を行い、通常的心肺蘇生を行ってください。心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除きます。見えない場合にはやみくもに口の中に指を入れて探らないでください。また異物を探すために胸骨圧迫を長く中断しないでください。



図46



乳児への背部叩打法

図47



乳児への胸部突き上げ法

